



学校だより

深谷

令和8年9月30日

10月号

横浜市立深谷小学校

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fukaya>

つながれ！全力深谷っ子のWA！

校長 杉田 仁

このたびの台風25号により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の日も早い復旧・復興と、安全で穏やかな日常が戻りますことを心から願っております。

さて、少し前ですが、7月にインクルーシブ水泳競技大会が横浜国際プールで開催されました。この大会は、障がいの有無にかかわらず、多様な選手が同じ舞台で競い合い、スポーツを通して互いを理解し合うことを目的とした大会です。共生社会の実現を目指した取組として、多くの競技者が参加しています。私は、ニュースでその大会の存在を知ったのですが、映像を観ていて心に残ったのは、一人ひとりが自分の目標に向かって真剣に挑戦している姿、ゴールして喜び合う姿でした。選手たちの年齢や経験、障がいの有無やクラスはさまざまです。しかし、スタートの瞬間の緊張感やゴールを目指して懸命に泳ぐ姿には共通するものがありました。それは、「自分の力を精いっぱい発揮したい」という強い思いです。この大会では、それぞれの障がいや特性に応じた区分やルールの中で記録が評価されます。そのため、世界記録とは大きな差がある選手でも、自分のカテゴリーの中で優れた成績を収めれば表彰台に立つことができます。私は、その表彰の様子を見ながら、「人の価値は一つの物差しでは測れない」ということを感じました。

人は、とすると結果だけで他人を評価してしまいがちです。しかし、本当に大切なのは、その人がどれだけ努力したか、どれだけ成長したかということではないでしょうか。共生社会とは、みんなが同じになることではありません。一人ひとりの違いを認め合い、それぞれのよさを生かしながら共に生きていく社会です。

来月にはスポーツフェスティバルが行われます。運動会では、どうしても勝敗や順位に目が向きがちです。もちろん、勝利を目指して努力することは大切です。しかし、スポーツフェスティバルの本当の価値は、それだけではありません。学習を重ねて少しでも速く走ろうと頑張ること。苦手な演技にも最後まで挑戦すること。仲間と力を合わせて一つのことを成し遂げること。係や応援で運動会を支えること。そこには、一人ひとりが輝く場面があります。たとえ一位になれなくても、自分なりの目標を達成できれば、それは大きな成長です。

インクルーシブ水泳競技大会で見た表彰台は、「誰もが活躍できる場がある」ということを教えてくれました。学校も同じです。運動が得意な子だけが輝くのではなく、それぞれの子どもが自分のよさを発揮し、互いの頑張りを認め合うことができる学校でありたいと考えています。スポーツフェスティバルは、仲間を応援し、協力し、支え合うことを学ぶ絶好の機会です。子ども達には、勝ち負けだけでなく、仲間とともに努力する喜びや、自分自身の成長を感じてほしいと思います。そして、互いの違いを認め合いながら、みんなで一つの行事をつくり上げる経験を通して、共生社会の担い手として大きく成長してくれることを願っています。

スポーツフェスティバルでは、子ども達が「みんなが主役」を実感し、自信と達成感を得られる一日となることを期待しています。保護者や地域の皆様にも、子ども達一人ひとりの挑戦や頑張りに温かい声援をお送りいただければ幸いです。